

## BSE特定部位に係る舌扁桃の取扱いについて

奈良 聡<sup>1)</sup> 小山田博也<sup>1)</sup> 鈴木 稲子<sup>1)</sup>  
館山 孝俊<sup>1)</sup> 木村 政明<sup>1)</sup> 田中 成子<sup>1)</sup>  
工藤 輝世<sup>1)</sup> 村田 伸<sup>1)</sup> 東海林 彰<sup>1)</sup>  
栗林 一博<sup>1)</sup> 前田 良博<sup>1)</sup>

1) 十和田食肉衛生検査所

Key word : ①扁桃 ②分布状況 ③月齢

### I. はじめに

平成13年9月に我が国でBSE(牛伝達性海綿状脳症)が発生して以来、と畜場では病原体が高度に蓄積される部位を特定部位として除去している[1]。

特定部位の頭部には脳、眼、扁桃が含まれ、扁桃についても適切に除去するよう通知されている[2]。

当検査所では平成18年4月厚生労働省通知に基づき、昨年度厚生労働科学研究事業(舌扁桃に関する研究)で

実施された18ヶ月齢以上の牛の舌扁桃分布状況調査結果[3]を参考とし、「舌背側の両側の有郭乳頭分布部位から舌根部までの背側面及び舌外側縁の舌表面(筋層上方)」を除去している。

そこで、今年度18ヶ月齢未満(以下若齢牛)の舌扁桃分布状況を調査すると共に、本県の舌扁桃除去方法が月齢に関係なく適正かどうかの検証を行ったのでその概要を報告する。

### II. 目的

牛の扁桃は口蓋、咽頭、舌扁桃の3つに分けられ、口蓋、咽頭扁桃の除去は確実に実施されているが、舌扁桃は舌根部表面に散在し、肉眼では容易に判別できない。

米国では、最も舌根部に近い有郭乳頭(以下最後位有郭乳頭)を境とし、それより舌尖部側には舌扁桃は存在しないとされ、最後位有郭乳頭でカットし食用に供している[4]。

一方英国では、最後位有郭乳頭より舌尖部側にも舌扁桃があるとの報告もある[5]。

昨年度実施された厚生労働科学研究事業では、牛の舌扁桃は最後位有郭乳頭より舌尖部側にも認められ、その分布は種類や性別より月齢に関係が深いと報告された[6]。

このことから、若齢牛について調査を実施することとした。

### III. 研究方法

管内と畜場に搬入された0~15ヶ月齢の牛10頭の舌を検体として、10%緩衝ホルマリン固定後正中線で左右に分割し、左半分について最後位有郭乳頭から舌尖部方向へ5mmずつ細切した。その後、常法に従いパラフィン切片を作成し、ヘマトキシリン・エオジン染色後、鏡検し、扁桃組織を確認した。

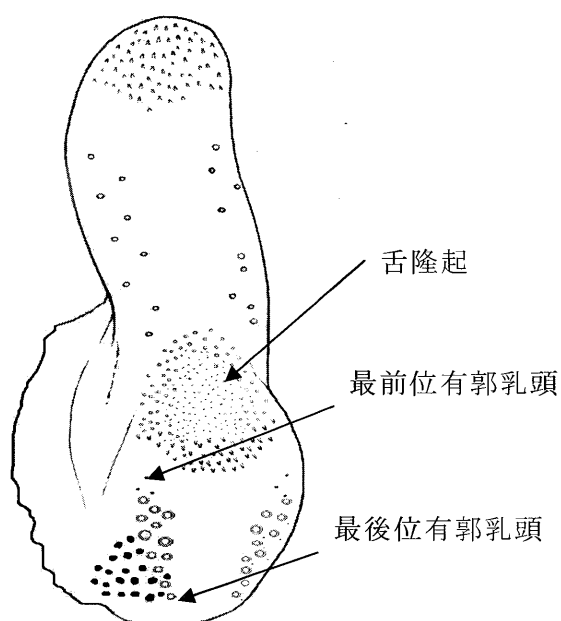
### IV. 結果及び考察

若齢牛の舌扁桃は粘膜固有層のみに存在し、特に最後位有郭乳頭舌側部を中心として、舌尖部に向かって減少し、舌背側面には少なく、最前位有郭乳頭付近まで分布する傾向があった。

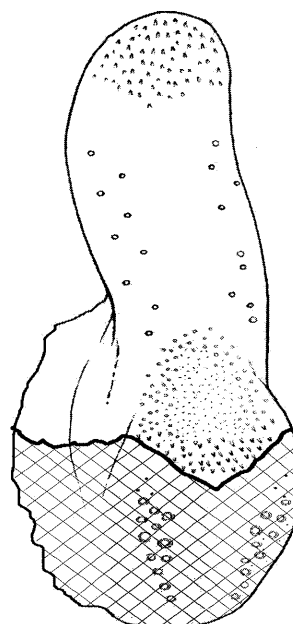
しかし、最前位有郭乳頭より前方(舌尖部側)および粘膜固有層下の筋層には認められなかった。

今回の調査結果から、現在の除去方法である「舌背側の両側の有郭乳頭分布部位から舌根部までの背側面及び舌外側縁の舌表面(筋層上方)の除去」は、月齢に関係なく適切であり、特定部位が完全に除去されていることが確認された。

舌扁桃分布状況  
(黒い点)



当検査所の除去部位  
(斜線部の粘膜上皮)



## V. 文献

- [1] 厚生労働省医薬局食品保健部監視安全課長通知:特定危険部位の取扱いについて、食監発第1119003号 (2002/11/19)
- [2] 厚生労働省医薬局食品保健部監視安全課長通知:特定危険部位の取扱いについて、食監発第1119003号 (2002/11/19)
- [3] 厚生労働省医薬局食品保健部監視安全課長通知: BSE対策に関する調査について、食監発第0331005号 (2006/03/31)
- [4] USDA ホームページ  
([http://www.fsis.usda.gov/OFO/TSC/removal\\_of\\_tonsils.htm](http://www.fsis.usda.gov/OFO/TSC/removal_of_tonsils.htm))
- [5] Veterinary Record :Pathogenesis of experimental bovine spongiform encephalopathy
- [6] 平成17年度厚生労働科学研究資料